

遠くの家族と団らん～テレビ電話で簡単に

昨今ブロードバンドネットワークの普及により、一般家庭において、低コスト・高品質なテレビ対話を楽しめるようになった。

テレビ電話は単身赴任や、郷里に両親を残している場合や単身赴任等の事情により離ればなれになっている家族には大いなる福音である。相対する会話においては、幾ばくかの通信ディレイはあるものの、自然な対話が可能であり、「テレビ電話」というハードウェアを介していることを忘れる程である。

ところが少なくともひとつ問題がある。このようなテレビ電話の効用は、あくまで対話者が意識的に会話をしている場合のみ生じる。「何もしない贅沢」や「のんびりした団らん」をテレビ電話に向かいあったまま楽しむことはできないのである。

これはちょっとした工夫で解決できる。要は、無理に会話をしない、テレビ電話の窓を通した向こう側に、家族が居る、と思えばいい(図1)。テレビ電話は常に動かしておき思いついたときに必要に応じて会話を始めればよいのである。例えば、窓の向こう側で家族が笑えば、その理由を訪ねることで会話を始めることができる。

お年より世帯の悩みの一つは、夜の時間のなんともいえない心細さである。どんなにお友達が多い人でも夜は結局一人になってしまう。テレビ電話という小さな窓ではあるが、始終つながっているならば、安心度がかなり違うのではないだろうか。

もう一つ面白いテレビ電話の使い方がある。テレビ電話を窓のように使うのは上記と同じ。これに加えて双方で同じテレビ番組を見るのである(図2)。テレビの位置は、テレビ電話に向けて右側におき他方では左側におく。こうすると、あたかも同じ部屋で同じテレビ番組を見ながら、必要に応じてお互いの表情を見ながら話しをすることができる。

実際にやってみると、ものめずらしさもてつだってけっこう楽しい。情報系の番組など、一人で見るより「あーでもない、こーでもない」と誰かとしゃべりながらみたほうが格段に楽しいものである。そしてここでも、ポイントは常にしゃべりつづける必要はないということ。必要に応じて、のんびりと会話を楽しめばいいのである。

テレビ電話の使い方には上記の他にも様々な広がりがあるが、今ひとつ普及が進まないのは、インターネット回線の開設も含めて手続きやコンピュータの設定の複雑さにある。テレビや電話並みの手軽さで楽しめるようになるまでには、まだ家電品として改良の余地があるようだ。

(AIST 熊谷、2008/6/10)

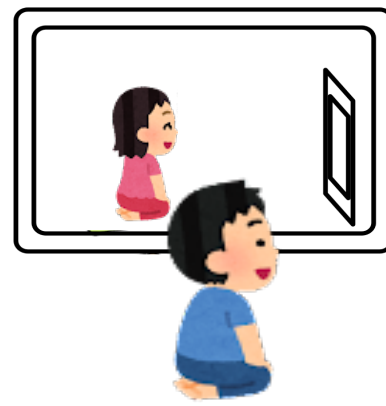
テレビ電話画面



テレビ電話の窓の向こうに家族がいる。必要に応じて声をかければよい。

図1 会話をしないテレビ電話

テレビ電話画面



テレビ画面

双方で同じテレビをつければ、談笑しながら楽しめます。手軽に遠隔地の家族とのんびりテレビ団らんできます。

図2 一緒にテレビを見よう